大学の世界展開力強化事業
（2017年度採択）
2020年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2021年1月15日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2017年度に採択された11件のプログラムについて、①交流プログラムの内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及の各観点と特記すべき成果により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する交流学生数の実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

ロシア、インドともに事業最終年度に向けて取組内容を充実させながら、事業達成に向けた成果をあげられるよう努力がなされており、学生交流では様々な交流方法を用いた活動を行っている。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況
①交流プログラムの内容

タイプA（交流推進プログラム）
（主な交流先・ロシア：東京外国語大学）
　短期受入プログラム「日露ビジネスサマースクール」を構成する日露タンデム学習では、タンデム手法を専門に研究する本学の博士後期課程学生による事前ガイダンスを行い、学習効果を高めるとともに、日露学生合同での映像字幕翻訳の演習を授業に取り入れるなど、多様な授業内容を展開した。

（主な交流先・ロシア：金沢大学）
　各種委員会及びWGの開催、ロシア側の関連大学との打ち合わせ、専用Webサイトによる情報発信等の継続的な取組を行った結果、交流学生数の増加を達成した。

（主たる交流先・ロシア：近畿大学）
　交換留学で派遣した日本人学生は、日系企業の協力の下、「国際プロジェクトマネジメント実習」などを実施し、受入れたロシア人学生には、大阪府のモノづくり企業11社でのインターンシップに参加するなど、産業界と連携した教育プログラムの構築が順調に進んでいる。

（主たる交流先・インド：北海道大学）
　本プログラムで開講する基礎科目では、eラーニング教材を活用することでやむを得ない欠席等にも柔軟に対応すると共に、学生の復習・学習の進捗把握にも役立てている。

（主たる交流先・インド：広島大学）
　本事業で実施する学生交流プログラムの多くは、既に広島大学で実施している海外派遣留学プログラムや外国人留学生受入れプログラムに、インドの大学との交流を実施するに当たり必要なアレンジを加えて実施しているため、企画から実際の派遣・受入れ開始までの検討を簡略化する工夫が活かされている。

タイプB（プラットフォーム構築プログラム）
（主たる交流先・ロシア：北海道大学、新潟大学）
　日露大学協会総会における初の試みとして、産官学連携の機会を創出するための企業ブースの設置や、両国の研究者の交流促進の場として日露学術フォーラムを開催した。日露産官学連携実務者会議には、昨年度の1.5倍以上となる多数の出席者を日露の産官学の各セクターから得て、多角的･多層的に日露交流を促進した。

（主たる交流先・インド：東京大学）
　第２回JIEPP(Japan India Exchange Platform Program)シンポジウム、国際ワークショップ等を通じて産官学の連携や大学間ネットワークの強化、留学生を含む若い世代への本プログラムの普及を行った。研究交流を通じてインドの各大学との関係強化を行い、連携拡大に努めるとともに、東大インド事務所との協力により、留学促進活動を実施した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

タイプA(交流推進プログラム)
(主な交流先・ロシア：千葉大学)
　極東農業大学及びノボシビルスク農業大学との協定を締結し、3大学で施設園芸等に関わる共同プログラムの検討が開始された。修士プログラムでの共同プログラム開設について、ロシア農業省からの了解が得ることができた。

(主な交流先・ロシア：東京工業大学)
　長期交流では研究内容の事前すり合わせを行い、学術的成果創出に繋げている。短期交流にあっても、学生には研究内容のオーラルまたはポスターによる発表を課した。また、日露学生の混成チームによるグループ論議、個別研究室配属による実験・実習などで交流の活発化を図り、能動的活動を促している。

(主な交流先・ロシア：長崎大学、福島県立医科大学)
　コンソーシアム運営会議等の場を通じて、補助期間終了後の経済状況及び社会情勢の変動によって日露間の渡航が不可能となった際を想定して、遠隔講義を検討すること等の運営に関わる意見交換を行い、遠隔講義については2020年度後期より実施予定とした。引き続き更なる遠隔講義及び単位互換の可能な科目を拡充し、本専攻及び北西医科大学間との認識を一致させることによって、ダブル・ディグリー・プログラムの構築に努める。

(主な交流先・ロシア：東海大学)
　留学報告会は、2019年度より派遣留学生が所属する各キャンパスで実施され、留学経験に基づく学びや課題を学生と教職員の間で共有し、学生達の更なる学習意欲の向上及び留学への動機づけに活かしている。参加予定の学生には、実体験に基づく説得力のある情報提供の場として効果をあげている。

(主な交流先・インド：北海道大学)
　成果報告会では、インターンシップを終了した学生が、日印教員やコンソーシアム企業参加者に対して英語による発表を行い、質疑応答にも自信を持って対応する様子が確認できるなど、本プログラムの高い教育効果を、日印双方及びコンソーシアム企業とで共有することができた。また、修了生のうちインド工科大学マドラス校の1名が、2020年度から北海道大学工学院博士後期課程（英語プログラム）に進学することとなる等、交流の成果が現れている。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

タイプA(交流推進プログラム)
(主な交流先・ロシア：東京工業大学)
　受入プログラムでは、受入期間中に専任教職員やサポート学生を配置し、引率等きめ細かい対応の結果、交流学生はプログラム活動により専念できた。派遣プログラムでは、短期・長期とも派遣開始を同時期とし、ロシア滞在経験を有する専任教員が引率して現地における生活指導を行うことで、学生は安心感を持ってプログラムに参加できている。

（主な交流先・ロシア：長崎大学、福島県立医科大学）
　派遣プログラムにおいては渡航前より英語のテキストで指導を行い、スケジュールの流れ等を確認する学内説明会を実施し、受入プログラムでは、ロシア語に堪能な教員が派遣期間のスケジュールに係る連絡を行い、滞在中もサポートを実施した。図書館利用や安価な宿泊施設の提供を行い、JASSO奨学金の経済支援により日本での生活を快適に過ごせるように努めた。

（主な交流先・ロシア：東海大学）
　生活と学習支援のために、受入学生一人一人にチューターを斡旋し、日本の生活への適応や日本語による授業への支援態勢を実施している。また、2019年度後半には、健康推進室と連携して健康観察と感染拡大防止策を講じるなど、留学の継続と安全性の担保を図ることに努めた。

（主な交流先・インド：北海道大学）
　学生の募集・選考時から修了認定まで、セントラル・オフィスとリエゾンオフィスが連携したサービスを提供し、参加学生にインターンシップ前後で自己評価を課すことで、学生自身が本プログラムに参加した成果を実感できるように努めた。

（主な交流先・インド：広島大学）
　ILDP事務室には、本事業を専任で担当する教職員を複数人配置し、インド6大学との事務的な調整及び学生交流プログラムの企画・実施運営を全学を横断する形で担当することによって、インドへの派遣・受入をワンストップで実施した。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

タイプA(交流推進プログラム)
（主な交流先・ロシア：東京外国語大学）
　日本国内で行うロシア人学生向けインターンシップの機会に、一部で日本人学生や他国の留学生も受け入れたことによって、学生の学習環境の国際化を促進することができた。

（主な交流先・ロシア：東京工業大学）
　2019年度長期受入学生1名の研究内容を学術雑誌（Biochemie）に投稿し、2020年度掲載（Vol. 170,p49-56）された。さらにもう1名の長期受入学生による「日本原子力学会・春の大会」での講演発表が計画された。学会はCOVID-19により中止となったが、各々の学術雑誌と学会の予稿集にはその謝辞に、「本事業によるサポート」が明記され、成果が外部発信された。

（主な交流先・ロシア：近畿大学）
　連携大学の教員を招聘したセミナーやプログラム参加学生による帰国報告会、ロシア留学相談会を開催し、学生・教職員がロシアとの交流と国際化について理解を深める機会を設けた。

（主な交流先・インド：北海道大学）
　成果報告会後に企業参加者と学生が直接話し合う座談会を開催し、双方にとって有益な場を提供した。これにより、2019年度は新たに企業6社からコンソーシアムへの参加表明を得ている。

特記すべき成果

タイプA（交流推進プログラム）
（主な交流先・ロシア：東京外国語大学）
　モスクワで実施する日本アニメフェスティバル「J-ANIME MEETING IN RUSSIA」の準備作業を事業参加型インターンシップとして位置づけ、本学学生　20名、ロシアの学生26名が参加した。本イベントは日本映像翻訳アカデミーの主催、東京外国語大学共催で実施される産学合同プロジェクトであり、産官学連携実務者会議でグッドプラクティスの事例として取り上げられ、パネルディスカッションの形式で他大学の関係者に活動状況等をシェアする機会を得ることができた。

（主な交流先・ロシア：金沢大学）
　金沢大学も加盟する「大学コンソーシアム石川」の13大学と、カザン連邦大学(KUF)をはじめとした海外連携8大学と、「石川～ロシア大学交流コンソーシアム設立に関する覚書調印式および記念シンポジウム」を開催した。また金沢大学の橋渡しで、石川県とタタルスタン政府との連携に関する打合せが実現したとともに、相互交流を深めるため金沢大学教職員が石川県企画振興部及びJETRO金沢一行とともにタタルスタン共和国関連機関並びにKFUを訪問した。加えて石川県国際交流協会による「石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム」にKFUからの受入学生が参加するなど、地域交流に向けての裾野を広げる一翼を担った。

（主な交流先・ロシア：東海大学）
　中間報告シンポジウムを開催し、ロシア側連携大学の代表団や、連携する産官学の代表が出席して事業の成果の普及や今後の改善、更なる取組の強化に向けた発表や議論を行なった。2019年には、国際ワークショップを日本とロシアで開催した。本プログラムから波及した多面的な研究交流を実施するとともに、今後の共同研究などを見据えた全学的な日露の交流を積極的に推進した。

（主な交流先・ロシア：近畿大学）
　学部での交流プログラムを経た次の段階である、大学院「東大阪モノづくり専攻」でのロシア人学生の受入準備が完了し、次年度4名が入学することとなった。大学院「東大阪モノづくり専攻」では、モノづくり企業でのインターンシップと並行して研究活動を行い、修士号または博士号の学位の取得を目指す。

（主な交流先・インド：広島大学）
　人材育成に必要な教材を共同で開発すること、優秀な学生の獲得と事業内容について広く公表・共有するためのセミナー・ワークショップをインド工科大学ムンバイ校3回、ビルラ技術科学大学ピラニ校1回及びインド中央電子工学研究所1回の計5回の実施と、インド科学技術大学シブプール校と国際ワークショップを開催したことで、学生交流を実施する上での関係者の相互理解が促進し、学内外へ本事業の取組みについて情報発信を行った。また、ワークショップでは、共同教材開発に取り組むための情報交換と、幅広い学術交流への発展に向けて学術連携分野の拡大についても意見交換を実施した。

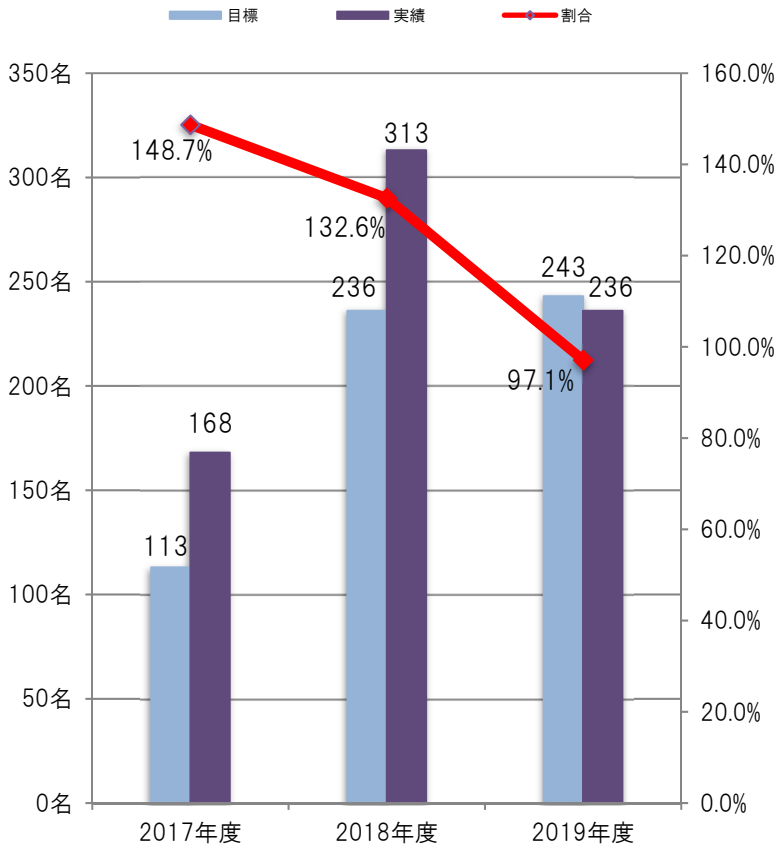
タイプB （プラットフォーム構築プログラム）
（主な交流先・ロシア：北海道大学、新潟大学）
　産業界等の日露交流者との関係構築や、ロシアの大学や企業等に対して積極的に本事業の広報にも努めた結果、実務者会議にはロシア側から30大学、10企業・団体等と新たな日本の企業・団体及び公的機関が参加し、人材育成に関するGPや課題の共有、専門セクションへの参画検討へと繋げることができた。また、本事業の推進がきっかけの一つとなり、モスクワ国立大学内に北海道大学・モスクワ大学共同オフィスを開設し、日露大学協会の窓口としての機能を果たしている。

交流学生数の実績（１）

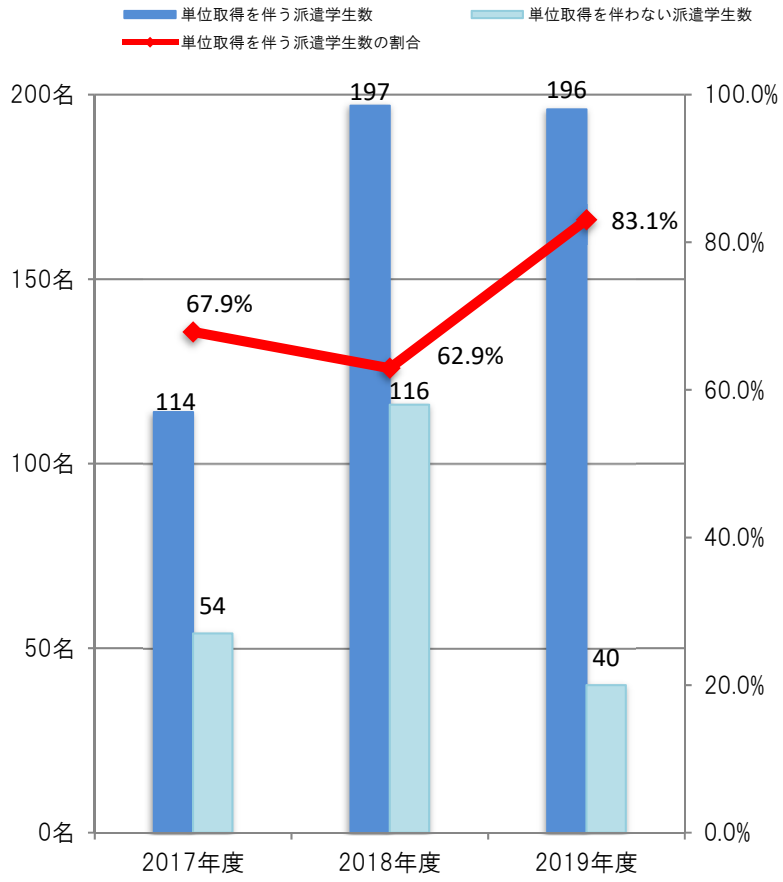
(1-1)交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について＜全体の状況＞

2019年度は、コロナ禍の影響もあり派遣実績はわずかに下回ったものの、うち単位取得を伴う派遣学生数は前年度同様の水準を維持している。

目標に対する実績の割合



<参考>単位取得を伴う派遣学生数



※詳細は別表１参照

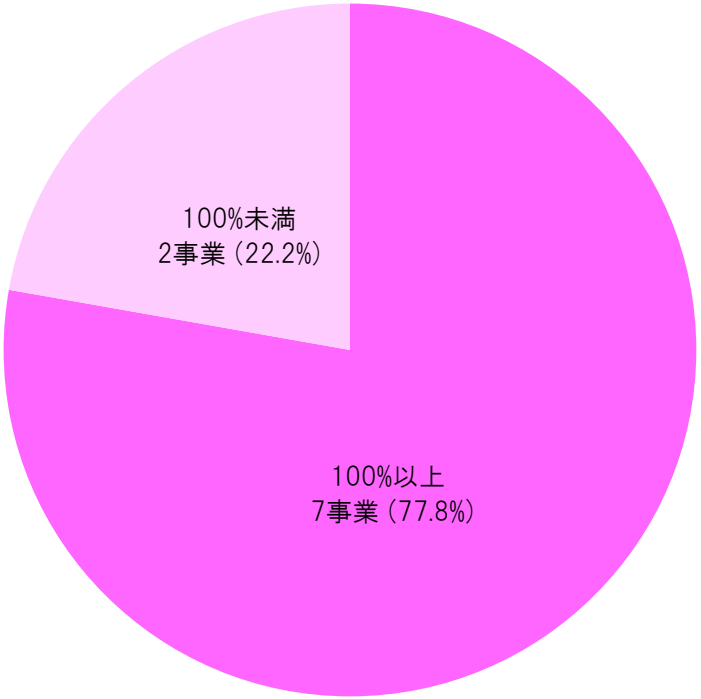
交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について
＜各プログラムの状況(2019年度)＞

2019年度は、コロナ禍の影響もあり派遣中止や延期の対応を行った2プログラム以外は、目標を上回る実績となっている。

目標に対する実績の割合

■100%以上　■100%未満

※個別の派遣学生数の詳細は別紙１参照



(1-2)交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

（主な交流先・ロシア：千葉大学）
　サハリン総合大学への長期学生派遣では、サハリンの日本センターや企業への短期インターンシップを実施した。また、8日間のサマープログラムについては、サハリン、ウスリースクそれぞれの地域特性を活かして農企業や直売所の見学などを組み入れたことによって、参加学生の満足度が向上している。

（主な交流先・ロシア：東京工業大学）
　2週間の短期派遣においても長期派遣プログラムと同様に、学生による発表の機会を重視して学内における研究内容や成果発表会でのプレゼンテーション、並びにロシア人学生とのグループ討議や討論会における意見表明等、レベルの高い濃密なプログラムを実施した。

（主な交流先・ロシア：金沢大学）
　文化交流プログラムで実施した派遣・受入の双方向的かつ連続的な交流は、教育効果が高いほか、現地学生とペアで活動させることによって、地域やインターンシップ受入先企業からの理解が得られやすいというメリットがあった。

（主な交流先・ロシア：長崎大学、福島県立医科大学）
　北西医科大学にて英語で開講した「生物統計学(Biostatistics)」は、ディスカッションやレポートをもとに現地の教員が本専攻の学生に対して成績評価を行い、優秀な評価を得ることができ、同科目を本専攻の「疫学(Epidemiology)」として単位認定を行った。

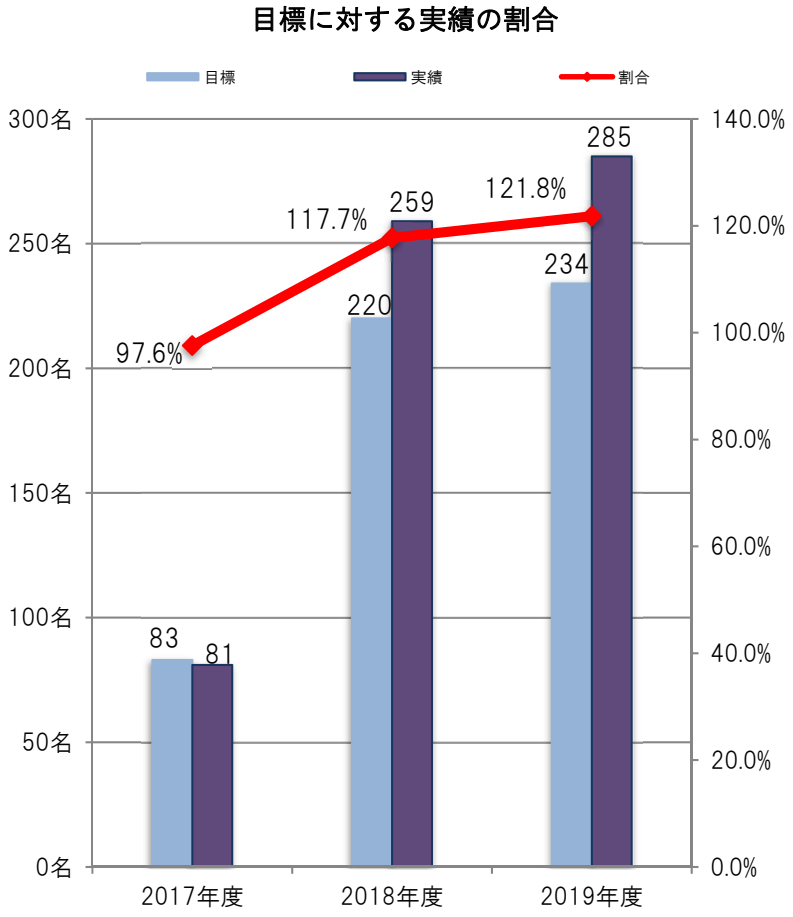
（主な交流先・ロシア：近畿大学）
　1セメスター交換留学では過去最多の5名を連携大学であるITMO大学に4名、カザン連邦大学に1名へそれぞれ派遣し、留学先では英語による理工系の専門科目を中心に履修し、帰国後に単位互換を行なった。

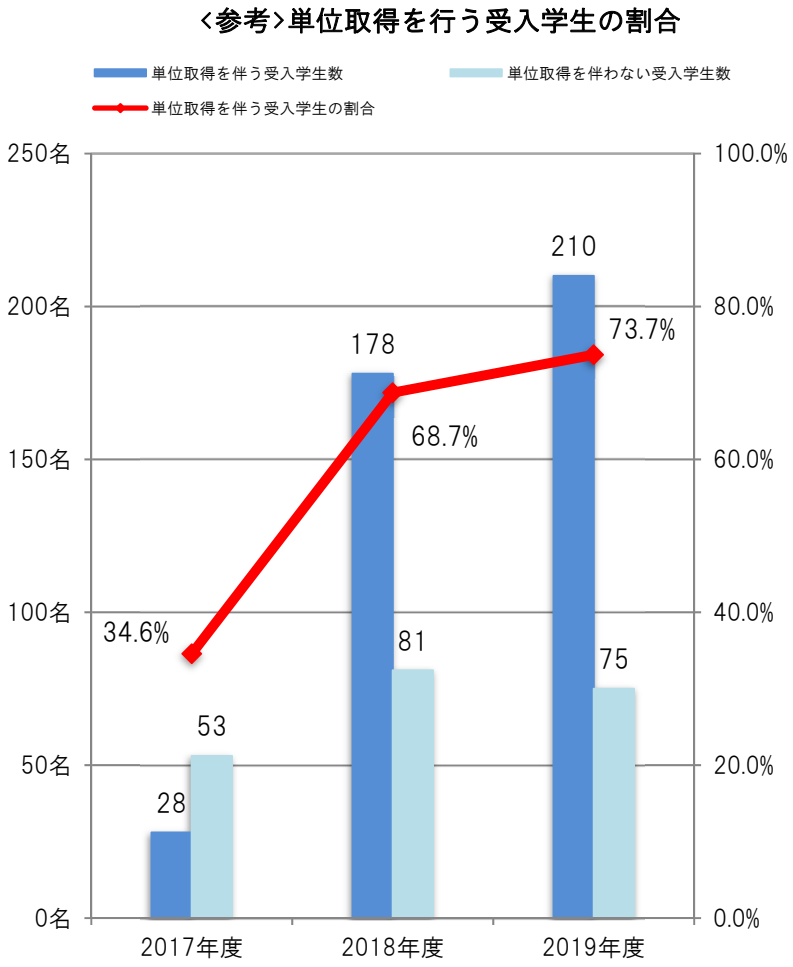
（主な交流先・インド：北海道大学）
　学部学生時に短期間の派遣を経験した学生が、修士課程進学後に長期での派遣に挑戦可能なプログラム構成は、参加学生の経験談を聞いた同じ研究室の学生が応募する等の継続的な派遣希望者を獲得する波及効果が窺える。

交流学生数の実績（２）

(2-1)交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について＜全体の状況＞

受入実績の増加とともに、単位取得を伴う受入学生数も比例している。





※詳細は別表2参照

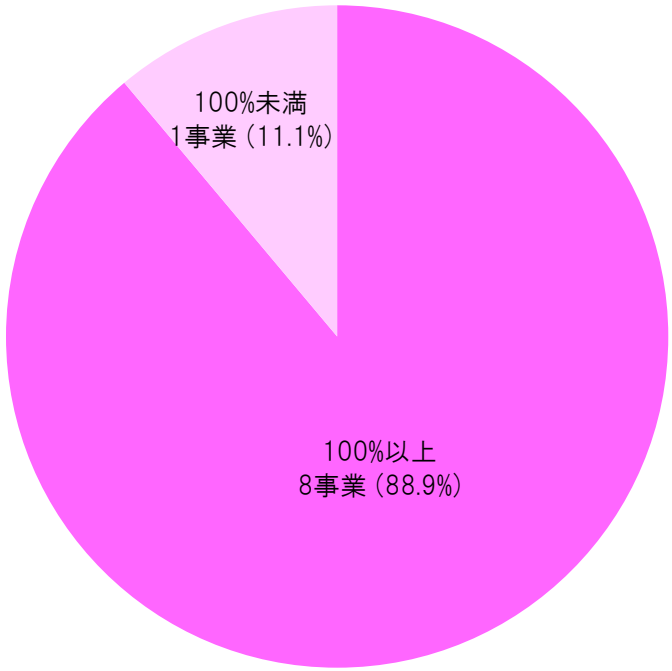
交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について
＜各プログラムの状況(2019年度)＞

目標に達しなかった1事業も内容はほぼ達成しており、おおむね目標を達成している。

目標に対する実績の割合

■100%以上　■100%未満

※個別の派遣学生数の詳細は別紙２参照



(2-2)交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

(主な交流先・ロシア：千葉大学)
　農業アカデミーの2名を3か月、サハリン総合大学から2名を5か月、長期インターンシッププログラムで受入れ、FARM(Future Agriculture with Russian Far east Pre-Master to PhD Program)に関わる、プロジェクトワークや植物工場企業での長期インターンシップを実施した。サハリン総合大学からの受入学生には、ロシアから企業が来訪した際には専門通訳としてのインターンシップも実施した。

(主な交流先・ロシア：金沢大学)
　地域住民との交流は英語で行うことが難しいことから、受入第一週目にサバイバル日本語教育を実施してロシア人学生に簡単な会話を修得させるとともに、研修中は通訳者を同行させてコミュニケーションの充実を図った。これにより言語の障壁が和らぎ、相互理解の促進やコミュニケーションの活発化等の教育効果に直結するメリットが得ることができた。

(主な交流先・ロシア：長崎大学、福島県立医科大学)
　「川内村実習」及び「救急医学実習」を受講のため、北西医科大学の学生が初めて東日本大震災の被災地である川内村や大熊町を訪問し、被災した方々の話を聞くことや、植物や土地の放射線量の測定及び第一原発事故現場を実際に見学する等の貴重な体験を通じて、災害・被ばくに関する理解を深めた。また、連携する両国の3大学の学生が揃って行う実習は、日露間の交流の促進に効果があった。

(主な交流先・インド：広島大学)
　Advanced Courseの日印協働チーム研究（ILDP-International Team Project）では、8名の外国人留学生を受け入れ、広島大学の学生とともに、高速データビジョンについての共同研究に従事した、学生同士が切磋琢磨することで、双方の学生の知識と技術が向上した。また、Intermediate Courseの日印協働研修（ILDP-Onsite Training）には、インドからの外国人留学生9名の他、広島大学から8名と米国のテキサス大学オースティン校から9名、同志社大学から1名が参加し、参加学生達は国際的で共創的な環境のもと、日本の過疎地が抱える問題の解決に取り組んだ。この研修の成果は、学生ワークショップとして広く市民に公開した。

別表1：プログラムごとの派遣学生数（2017年度選定）

（単位：名）

	大学名	事業名	取組年度	合計人数 目標（計）	合計人数 実績（計）	達成目標に対する実績の割合（%）	（内訳）単位取得を伴う派遣学生数（計）目標	実績	3ヶ月未満 目標	実績	3ヶ月以上 目標	実績	左記以外の派遣学生数（計）目標	実績	3ヶ月未満 目標	実績	3ヶ月以上 目標	実績
タイプA ロシア	千葉大学	極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム	2017	6	10	166.7	6	6	6	6	0	0	0	4	0	4	0	0
			2018	10	12	120.0	10	6	10	6	0	0	0	6	0	6	0	0
			2019	14	15	107.1	14	12	12	9	2	3	0	3	0	3	0	0
			計	30	37	123.3	30	24	28	21	2	3	0	13	0	13	0	0
	東京外国語大学	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム	2017	28	39	139.3	28	39	13	23	15	16	0	0	0	0	0	0
			2018	30	39	130.0	30	39	15	23	15	16	0	0	0	0	0	0
			2019	32	41	128.1	32	41	17	26	15	15	0	0	0	0	0	0
			計	90	119	132.2	90	119	45	72	45	47	0	0	0	0	0	0
	東京工業大学	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム	2017	10	11	110.0	0	0	0	0	0	0	10	11	10	11	0	0
			2018	15	15	100.0	3	7	0	4	3	3	12	8	12	8	0	0
			2019	15	15	100.0	3	5	0	3	3	2	12	10	12	9	0	1
			計	40	41	102.5	6	12	0	7	6	5	34	29	34	28	0	1
	金沢大学	日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム	2017	20	38	190.0	20	38	20	35	0	3	0	0	0	0	0	0
			2018	35	65	185.7	35	65	34	65	1	0	0	0	0	0	0	0
			2019	62	80	129.0	62	74	60	74	2	0	0	6	0	6	0	0
			計	117	183	156.4	117	177	114	174	3	3	0	6	0	6	0	0
	長崎大学、福島県立医科大学	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業	2017	6	9	150.0	0	0	0	0	0	0	6	9	6	9	0	0
			2018	10	14	140.0	10	10	10	10	0	0	0	4	0	4	0	0
			2019	10	14	140.0	10	14	10	14	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	26	37	142.3	20	24	20	24	0	0	6	13	6	13	0	0
	東海大学	ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成―主に極東地域の経済発展を目的として―	2017	15	15	100.0	2	0	2	0	0	0	13	15	13	15	0	0
			2018	70	74	105.7	10	10	5	6	5	4	60	64	60	64	0	0
			2019	30	10	33.3	15	10	5	0	10	10	15	0	15	0	0	0
			計	115	99	86.1	27	20	12	6	15	14	88	79	88	79	0	0
	近畿大学	日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成	2017	5	14	280.0	0	0	0	0	0	0	5	14	5	14	0	0
			2018	15	25	166.7	5	4	0	0	5	4	10	21	10	21	0	0
			2019	26	26	100.0	10	5	0	0	10	5	16	21	16	21	0	0
			計	46	65	141.3	15	9	0	0	15	9	31	56	31	56	0	0
	合計			464	581	125.2	305	385	219	304	86	81	159	196	159	195	0	1
タイプA インド	北海道大学	持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム	2017	5	5	100.0	5	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0
			2018	15	26	173.3	15	13	9	12	6	1	0	13	0	13	0	0
			2019	18	18	100.0	18	18	12	16	6	2	0	0	0	0	0	0
			計	38	49	128.9	38	36	26	33	12	3	0	13	0	13	0	0
	広島大学	先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム	2017	18	27	150.0	3	6	3	6	0	0	15	21	15	21	0	0
			2018	36	43	119.4	18	43	9	43	9	0	18	0	15	0	3	0
			2019	36	17	47.2	18	17	9	17	9	0	18	0	15	0	3	0
			計	90	87	96.7	39	66	21	66	18	0	51	21	45	21	6	0
	合計			128	136	106.3	77	102	47	99	30	3	51	34	45	34	6	0
総計				592	717	121.1	382	487	266	403	116	84	210	230	204	229	6	1

別表2：プログラムごとの受入学生数（2017年度選定）

（単位：名）

	大学名	事業名	取組年度	合計人数 目標（計）	合計人数 実績（計）	達成目標に対する実績の割合（%）	（内訳）単位取得を伴う派遣学生数（計）目標	単位取得を伴う派遣学生数（計）実績	単位取得を伴う派遣学生数 3ヶ月未満 目標	単位取得を伴う派遣学生数 3ヶ月未満 実績	単位取得を伴う派遣学生数 3ヶ月以上 目標	単位取得を伴う派遣学生数 3ヶ月以上 実績	左記以外の派遣学生数（計）目標	左記以外の派遣学生数（計）実績	左記以外の派遣学生数 3ヶ月未満 目標	左記以外の派遣学生数 3ヶ月未満 実績	左記以外の派遣学生数 3ヶ月以上 目標	左記以外の派遣学生数 3ヶ月以上 実績
タイプA ロシア	千葉大学	極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム	2017	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
			2018	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
			2019	12	23	191.7	10	14	10	10	0	4	2	9	2	9	0	0
			計	32	43	134.4	30	34	30	30	0	4	2	9	2	9	0	0
	東京外国語大学	日露人的交流の飛躍的拡大に貢献するTUFS日露ビジネス人材育成プログラム	2017	15	8	53.3	15	8	0	0	15	8	0	0	0	0	0	0
			2018	41	46	112.2	41	46	26	29	15	17	0	0	0	0	0	0
			2019	43	54	125.6	43	54	28	30	15	24	0	0	0	0	0	0
			計	99	108	109.1	99	108	54	59	45	49	0	0	0	0	0	0
	東京工業大学	健康・医療産業や原子力・エネルギー産業を先導する日露工学系人材育成プログラム	2017	10	11	110.0	0	0	0	0	0	0	10	11	10	11	0	0
			2018	15	15	100.0	3	0	0	0	3	0	12	15	12	12	0	3
			2019	15	15	100.0	3	0	0	0	3	0	12	15	12	12	0	3
			計	40	41	102.5	6	0	0	0	6	0	34	41	34	35	0	6
	金沢大学	日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム	2017	5	6	120.0	5	6	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0
			2018	17	37	217.6	17	37	15	36	2	1	0	0	0	0	0	0
			2019	44	59	134.1	44	38	39	36	5	2	0	21	0	21	0	0
			計	66	102	154.5	66	81	59	78	7	3	0	21	0	21	0	0
	長崎大学、福島県立医科大学	日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業	2017	0	0	－	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2018	10	6	60.0	10	3	10	3	0	0	0	3	0	3	0	0
			2019	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	20	16	80.0	20	13	20	13	0	0	0	3	0	3	0	0
	東海大学	ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成―主に極東地域の経済発展を目的として―	2017	15	15	100.0	2	2	2	2	0	0	13	13	13	13	0	0
			2018	60	49	81.7	10	10	5	5	5	5	50	39	50	39	0	0
			2019	30	30	100.0	15	15	5	5	10	10	15	15	15	15	0	0
			計	105	94	89.5	27	27	12	12	15	15	78	67	78	67	0	0
	近畿大学	日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成	2017	5	10	200.0	0	0	0	0	0	0	5	10	5	10	0	0
			2018	16	32	200.0	5	8	0	0	5	8	11	24	11	24	0	0
			2019	26	25	96.2	10	10	0	0	10	10	16	15	16	15	0	0
			計	47	67	142.6	15	18	0	0	15	18	32	49	32	49	0	0
	合計			409	471	115.2	263	281	175	192	88	89	146	190	146	184	0	6
タイプA インド	北海道大学	持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成プログラム	2017	5	4	80.0	5	4	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0
			2018	15	15	100.0	15	15	6	15	9	0	0	0	0	0	0	0
			2019	18	18	100.0	18	18	9	16	9	2	0	0	0	0	0	0
			計	38	37	97.4	38	37	20	35	18	2	0	0	0	0	0	0
	広島大学	先端技術を社会実装するイノベーション人材養成のための国際リンケージ型学位プログラム	2017	18	17	94.4	3	3	3	3	0	0	15	14	12	14	3	0
			2018	36	49	136.1	18	49	9	44	9	5	18	0	15	0	3	0
			2019	36	51	141.7	18	51	9	48	9	3	18	0	15	0	3	0
			計	90	117	130.0	39	103	21	95	18	8	51	14	42	14	9	0
	合計			128	154	120.3	77	140	41	130	36	10	51	14	42	14	9	0
総計				537	625	116.4	340	421	216	322	124	99	197	204	188	198	9	6